

健診など予防に力 小児歯科

病院の 実力

神奈川編 55

今回の「病院の実力」は、小児歯科を特集した。

小児歯科は、かつてはむし歯の治療が中心だったが、最近では定期的な健診など予防に力を入れている。健診では、歯磨きの指導や、むし歯予防効果のあるフッ素の塗布などを行う。自治体の乳幼児健診で、かみ合わせや歯並びの異常を

指摘されて受診するケースも多い。

子どもの歯は顎とともに成長するため、治療には大人とは違う技術や経験が必要だ。一人で座れない、治療を嫌がる—といった難しさもある。

一覧表では、小児歯科専門医が2011年に診察した患者のうち、18歳未満の患者の割合と、外傷患者の人数、地域住民や通院患者向けの講座や集いの実施状況を示した。

小児歯科専門医は、日本小児歯科学会が、子どもの歯科診療の経験や技術を認めた歯科医師だ。歯が生え始める前の赤ちゃんから診

療に依るが、実際の診療形態は様々だ。子どもだけを担当する場合もあれば、大人も積極的に診察する場合もある。

転倒や衝突で起こる外傷の治療は、子どもの歯や顎

むし歯 歯並びにも影響

県立子ども医療センター (横浜市南区)

佐々木康成 歯科部長



子どもの歯の健康を守る上で大切なのは、むし歯の

も参考に決めておきたい。子どもの歯の健康を守るには、生活習慣や外傷時の応急手当てなど正しい知識が欠かせない。地域で開かれる講座や集いは、各施設の診療方針を知る機会にもなる。ぜひ活用してほしい。

予防だ。離乳の時期からはしやスプーンを親の物とは別に、むし歯の原因となる菌が移らないようにする。特に奥歯が生えてくる2〜3歳は、むし歯が増えやすい時期なので注意が必要だ。食後に歯磨きをする、糖分を含んだ食品を控える、強い歯を作るためにフ

る、強い歯を作るためにフ

むし歯ができてしまったら早急に対処する。乳歯は抜け落ちるから治す必要はないと考えがちだが、むし歯は、下から生えてくる永久歯やほかの歯に広がったり、歯並びに影響したりすることがある。

むし歯の初期段階であれば、削らずに薬物を塗るなどして進行を抑える。歯を削る治療は、練習を重ねることでも3歳過ぎくらいから少しずつできるようになる。

治療する時には、ぬいぐるみなどを持たせたり、天井にアニメのポスターを貼ったりしてリラックスできるように工夫をしている。何をされるのかわか

週間ダイジェスト

29日(日)夏の高校野球選手大会は、横浜スタジアムで決勝戦が行われ、主戦・松井裕樹の力投で打線が14安打と応えた桐蔭学園が桐蔭学園を下し、5年ぶり4度目の優勝を果たした。

30日(月)川崎市は、サッカーJ1・川崎フロンターレの本拠地、等々力陸上競技場(川崎市中原区)のメインスタンド改築工事の落札者とデザインを決定。再生可能エネルギー利用の普及を促進させる税制を検討している県地方税制等研究会(座

病院の実力「小児歯科」

医療機関別2011年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	所在地	小児患者の割合(%)	外傷治療(人)	講座や集い
エンゼル歯科	平塚市	100	20	
クローヴァ歯科	横浜市都筑区	100	30	△
こども歯科ファミリー	横浜市緑区	100	-	
市石歯科	川崎市幸区	100	45	
大澤歯科医院	厚木市	100	14	
鶴見大歯学部	横浜市鶴見区	100	-	
すぎむら小児歯科	平塚市	99	3	
リーフデンタル	藤沢市	99	6	
てくてファミリー歯科	相模原市中央区	98	40	
ルミエール小児歯科	川崎市宮前区	98	40	
県立こども医療センター	横浜市南区	97	10	△
橋こども歯科医院	川崎市高津区	95	86	
石井こどもの歯科	横浜市磯子区	95	25	
登戸こども&おとな歯科	川崎市多摩区	95	21	
マリン小児歯科	茅ヶ崎市	91	65	△
神奈川歯科	横須賀市	90	46	
芳賀デンタル	平塚市	90	5	△
はなこ・こども歯科	川崎市宮前区	80	20	
チャイルドデンタル	大和市	74	35	△
ひやま歯科	川崎市川崎区	50	-	△
たかはし歯科医院	横浜市青葉区	40	15	
長田歯科医院	横浜市鶴見区	40	10	△
入江歯科	横浜市神奈川区	40	-	○
松原歯科医院	横浜市瀬谷区	33	10	
浜地歯科医院	川崎市麻生区	31	13	△
澤野歯科	鎌倉市	30	3	△
ア歯科岡崎診療所	横浜市青葉区	25	11	○
フィルム・デンタルクリニック・ホワイトエッセンス	横浜市西区	25	10	△
よしえ歯科医院	横浜市旭区	25	9	△
桂歯科医院	相模原市南区	25	3	
新川崎歯科医院	川崎市幸区	25	5	
響歯科医院	綾瀬市	23	2	△
センター南歯科	横浜市都筑区	17	15	△
杉浦歯科医院	横浜市瀬谷区	11	0	

「ク」はクリニック、「セ」はセンター。いずれもデータは2011年の実績。「小児患者の割合」は、医療機関に所属する小児歯科専門医が担当した患者数のうち、18歳未満の割合を計算した。患者数は実数で、概数での回答も含む。「講座や集い」は、「○(定期的に開催)」、「△(不定期に開催)」。

全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は9月2日「子宮・卵巣がん」の予定です。

小児歯科を掲げる医療機関は多い。治療方法や通いやすさなど実情に合わせて歯科医院や小児歯科専門医を選ぶことをおすすめする。